

子育てしたくなるまちづくり

相馬農業高校 3年 渡部 芳美

- 小児科を専門とする病院がない
- 子ども（出生数）・子育て世代が年々減っている
- 小高に住む子供の数が原町・鹿島に比べ圧倒的に少なく、震災で急激に減少した後、増加傾向が見られない



子どもの減少を止める・子どもにも親にも住みやすく子育てしやすくする

1 子どもがいる世帯のみが住める集合住宅を作る

- 外には公園が併設
- 子どもが元気に遊べる遊具と、親が子供を見守りながらおしゃべりできる日よけの屋根付きのテーブルとイス
- センサーライト、防犯カメラ、オートロックなど防犯面にも配慮

2 婚姻届・出席届を提出した夫婦・世帯にお祝い品を送る

- 婚姻届：市内で使える商品券
- 出生届：ベビー用品、幼児用品が5歳まで10%オフになるカード

3 小児科医の確保

- ホームページや医科大学で呼びかける

4 小高区を「子育て重点地区にする」

- 1~3の取組みを小高区を中心に行ってみる

得られる効果

- 1 子供→遊び相手がたくさんいるからストレスがたまらない
親→悩みを共有・共感できるから精神的に楽になる 助け合える
- 2 出産・育児にかかるお金の負担を少しでも減らすことができる
- 3 専門医がいることで働きやすくなるうえ、相談しやすくなる
- 4 子どもだけでなく、若い世代が増えていく→活気が戻る